



子どもとメディア 北海道

子どもとメディア 北海道

第51号
2023年
1月発行
今期第3号

「オンライングルーミング」について学ぼう！

～北海道新聞の取材をきっかけに～

担当：中谷

★ 今年もよろしくお願いします。年が明けて、北海道新聞の暮らし報道部の記者の方から、取材の依頼がありました。（新聞記事を配布します）前号の情報誌で、北海道内の学校関係者の方から相談を受けた内容を取り上げた時にも、中谷の経験として簡単に記述していました。

★ 数年前から、「情報モラル教育」で扱われる事件や事故については、私は見識が深いわけでもなく、他の多くの講師が伝えてくれているし、私の関心が「ネット・ゲームの長時間使用による健康・発達への影響」であるため、講演会や授業でもほとんど扱ってきませんでした。しかしながら、昨年秋に、直接「担任している小学校高学年女兒が、成人男性に裸の写真などを送り、直接会ってしまい性被害を受けた」と、相談の電話をいただいた事で、「これからはしっかり伝えていこう！」と決意したところでした。

★ 記憶に新しい座間市の9遺体事件でも、加害者は「死にたい」とTwitterで投稿している若者に近づき、相談に乗って信頼させてから会い、犯行におよんでいます。このように悩みを聞いて相談に乗ったり、子どもを褒めて親しくなった後に呼び出したり、裸の写真を送らせたりするのは典型的な「グルーミング」のパターンとされます。中には同性や同級生のふりをして近づく例や、相談内容をばらすとか裸の写真をばらまくなどと脅されて被害にあう例もあるのです。

★ 2021年3月の警察庁の「令和2年における少年非行、児童虐待及び子供の性被害の状況について」によると加害者と被害者はTwitterやInstagram、TikTokなどの若者に人気のSNSを通じて知り合っています。（右図参照）中にはオンラインゲームでボイスチャットをして親しくなり、被害にあっている子どももいます。

SNSから犯罪に巻き込まれた (18才未満) 児童数(2020年)

1,819人

★Twitter	642人 (35%)
☆Instagram	221人
ひま部(トーク)	160人
☆TikTok	76人
☆koe tomo	63人
その他	657人

★海外では、既にグルーミング行為に関連する法規制も行われていますが、日本でも令和 3 年 5 月に法務省で初めてグルーミング行為の罰則化に関する議論が開始され、令和 4 年 10 月には、「性交等又はわいせつな行為をする目的で若年者を懐柔する行為（いわゆるグルーミング行為）に係る罪の新設」の試案が示されたところです。そのような経過があり、今回、道新のくらし面でも取り上げるようになったようです。

★新聞では「グルーミング」全般についてわかりやすく取り上げていますが、私は今回の取材を受ける前に、付け焼刃ですが、「オンライングルーミング」について調べてみました。その内容を紹介しますので、参考にして下さいね。

オンライングルーミングはどのように犯罪被害につながるのか？

☆多くの加害者は SNS などの交流で信頼を獲得してから犯行におよんでいる。「学校に行きたくない」「親に怒られた」「家出をしたい、死にたい」などの悩みを SNS で吐露する子どもに近づき、親切なふりをして悩みを聞き、相談に乗って信頼を得るパターンが多い。そのような子どもたちは現実世界に頼れる大人などがおらず、心の弱みに付け込まれてしまっている。そして心を許し、信頼した頃を見計らって呼び出されている。

年齢的に若い子どもたちは性的な知識に乏しく、被害にあった後も自分は被害者であると気づかないことも多い。実際、性的な行為に嫌悪感や恐怖感を持っていても、理解できないことが多いという。また相手を信頼していればいるほど、理解者である大切な存在を失うことを恐れ、言いなりになってしまいがちなのである。

・ 昨年秋に相談を受けた小学校高学年女兒の性被害を受けた事例も、まさに上記にあるような状況だったようだ。被害を受けた後に無気力になったり、自傷行為が出たりしたことで、保護者が不審に思って事実が明らかになったそう。小学生と高校生では、どのような状況で性被害に逢いやすいのか、そもそも「性被害とはどのようなものなのか」の理解度が全く違う。親のコントロール(指導)の強さも大きく違って当然なのではないか？「子どもの最善の利益」とは？それを守る大人の責任は？

・ 思春期前期は、「親が嫌い」「先生がわかってくれない」「自分をわかってくれる友達がいない」と、誰もが感じる時期。むしろ、大人の入り口は「大人への反抗・不信感」から始まると思う。大人もその時期をどうやって乗り越えたのか、語ってあげたら良いのではないかと・・・「日記に思いをぶつけた」「読書をして自分だけではないと気がついた」「友達としゃべりまくった」「部活に燃えた」などなど（ナカヤ）

☆オンライングルーミングを行う者は、子どもの投稿内容から相手を物色・類推し、相手の共感を誘うような共通の話題を作り出すことで、交流を始めるハードルを下げている。また、誰でも見られるオープンな場所でやりとりを始め、親密性が徐々に増したところでお互いにしか見ることができない個別チャットやダイレクトメッセージ等の閉鎖的な場に移行させようとする。加えて、よりプライベートな領域に踏み込むため、匿名の SNS から非匿名の SNS に移行させる場合もある。これらは、やりとりの場をクローズドな環境に移すことで、プライベートな質問や性的な話題等、他者の目に触れる場では抵抗感のあるやりとりのハードルを下げる目論見がある。

【オンライングルーミングの手口】

- *子どもの投稿した文章や写真に対してコメントを付けることで交流を開始し、親密性が高まった タイミングで閉鎖的な空間でのコミュニケーション（個別チャット、ダイレクトメッセージ）に移行する
- *オンラインゲーム上で知り合い、チャットや通話機能を利用して親密性を高め、個人的な連絡先を交換する
- *ランダム的にマッチングした不特定多数の相手と通話できる匿名の SNS で接触し、特定の相手と個人的なやりとりを継続できる非匿名の SNS に移行する
- *匿名アカウントでグループチャットができる SNS 上で接触し、同一 SNS の非匿名アカウント情報を交換または入手し非匿名の個別チャットに持ち込む
- *共通の知人を介して生成されたグループチャットから連絡先を入手し、個別チャットに持ち込む

☆クローズドなコミュニケーションの場に移行した後は、オープンな場でしていた日常的な会話を続けながら、子どもの悩みを聞き出したり、気持ちに寄り添うような対話をしたりすることで、相手の信頼を勝ち取っていく。また、そもそも見ず知らずの相手と SNS 上で行うやりとりの中では、身体・容姿の悩みや家族・友人関係の悩み等、身近な人に相談できないことを打ち明けやすい場合もあり、悩み相談等をしているうちに、子どもは次第に相手のことを「誰にも言えないと思っていたと言える特別な人」、「いつも自分に寄り添って優しい言葉をかけてくれる良い人」と感じるようになる。その結果、相手から性的な会話・要求を投げかけられても、これまでの関係を壊したくないという思いから断りづらくなってしまいうのである。

☆さらに、相手を信頼しきっている場合、相手の要求に疑いを持たず、そもそも性犯罪の被害に遭っていることを自覚しにくくなるころもグルーミングの厄介な点である。
こうしたやりとりを通じて子どもの個人情報や写真・映像を手に入れ、それらを学校や親等身近な人に暴露したり、SNS に拡散したりすることをほのめかすことで、よりハードな要求をするようになる場合もある。最悪の場合、相手から呼び出されて連れ去りや強制性交等、強制わいせつ等の被害に遭うこともある。

被害を防止するために

★大人ができること(子どもに教えること)

知らない人とつながらない!

① 見ず知らずのユーザーに接触の機会を与えない

SNS に起因する事犯は、子どもによる日常的な投稿に対する反応から始まることが多い。そのため、まずは見ず知らずの人に自身の情報を見せない、知らせないことが重要である。例えば投稿内容を見たりコメントしたりできるユーザーを限定する非公開アカウント（いわゆる鍵アカウント）に設定したり、交流できる相手を申請・許可制にする（友だち追加申請の制限等）を行うことが大切である。また、不審なユーザーがいた場合、自身のアカウントを閲覧したり連絡を取ったりできないようにする設定（いわゆるブロック）を行うことも重要である。

こうした SNS 上のトラブルを回避するための防衛策について、保護者が正しく理解し、子どものア

アカウントの設定状況を確認したり、その必要性について話し合ったりすることが大切である。なお、SNS によっては、保護者が子どものアカウントを管理する機能（いわゆるペアレンタルコントロール）が備わっている場合もあり、有効に活用してほしい。

知らない人とDM(ダイレクトメッセージ)を交わさない！

② 閉鎖的なコミュニケーションの場に持ち込ませない

オンライングルーミングは 1 対 1 の閉鎖的な空間で行われることが多いため、SNS 上で知り合った人からダイレクトメッセージや個別チャットを受け取らないように設定することが大切である。また、匿名の SNS で知り合った人に非匿名の SNS アカウントや連絡先を教えないようにすることも重要である。これについても、①と同様に保護者が子どものアカウントの設定状況を確認しておけると良い。また、閉鎖的なコミュニケーションの場に移行することの危険性について注意喚起しておくことが重要である。

決して会いに行かない！誘われたら相談する

しっかりした相談先を教える！

③ 親子で話し合い、いつでも相談できる関係性を築く、または相談できる先を教える

グルーミングの危険性について、子どもが自ら理解し判断することは難しい場合もあるため、保護者も SNS やグルーミングについての理解を深めるとともに、見ず知らずのユーザーから個人情報（氏名や住所等）や写真の送付を要求された場合には、子どもから保護者に相談してもらえらる関係性を構築することも重要である。

なお、子どもが性犯罪の被害を受けた際には、保護者にその事実を伝えることが難しいことも考え得る。その場合は、学校の教員や相談機関等に伝えるという選択肢があることを教え、子どもが性被害に遭ったことを隠したり、一人で解決しようとしたりして、被害が拡大することを防ぐことも大切である。

★子ども自身が自分を守るためにできること

① 日ごろよく使う SNS の“プライバシー設定”を行きましょう

- アカウントの公開・非公開
- 自分が DM を受け取れる人の範囲設定
- 自分の投稿を読んでいい人の範囲設定
- 自分の画像へのタグ付けに関する許可設定

などのほか、プライバシーやセキュリティに関する設定を確認しましょう。

もしもアカウントが複数あるなら、それぞれの用途に合う設定を行い、使い分けの徹底を！（機種変更等の際は設定を再確認しよう）

ここで紹介しているアドバイスは、総務省の事例集から抜粋しています。

① のプライバシー設定や、② の「OKやNGを決めておく」ことが可能なのは、早くても中学生以降になるでしょう。自分でアカウントを作るアプリなどの多くが 13 歳以降だからです。そして、ここに書かれている内容をしっかりと理解できることが必須だと考えます。（ナカヤ）

② SNS 利用の「ここまでは OK」「ここからは NG」を決めておく

(DM のやりとりはしない、個人的なことは発信・投稿しない等、以下を参考に)

- いつも発信しているアカウントには、深刻なこと、プライバシーに関することは、書き込まない
- SNS で話をした人から急に DM が届いたら「ありがとう、あとは SNS で！」と返すなど、DM を断ち切る
- 時間が経つほど断りづらい！イヤなこと、不安なことで「どうしよう…」と迷ったら、すぐ & ハッキリ断る
- しつこく誘われたり脅されたりしても、決して応じず、独りで抱え込まず、身近な大人に相談する
- 周囲に相談しづらいとき、相談できる人がいないときは、勇気をもって警察や専門の窓口※に相談する

③ ネットだけに頼らずリアルな解決法も大事にしよう

溜まっているモヤモヤ・イライラをノートにどんどん書いて、声に出して言って、吐き出してみることも効果アリ。悩んでしまった時のために、考える時間を決めておいて、その時間を過ぎたらそれ以上悩まず寝てしまう。家族や先生、心を許せるリアルな友人などに相談してみても？

*地域や学校の「SNS 相談窓口」があれば、それも活用してみよう！

※下記 URL より「内閣府 ネットの危険から子供を守るために『各種相談窓口』」をご参照ください。

▶ https://www8.cao.go.jp/youth/kankyoku/internet_use/soudan.html

(インターネット・ホットラインセンターなど)

ここで紹介しているアドバイスも、総務省の事例集から抜粋しています。小学生に対しては、「利用規約の年齢制限を守ろう！つまり SNS での発信は、原則やめましょう！」と伝えたいものです。(ナカヤ)

発達段階別のアドバイス(参考)

小学校 → 家族、学校の友達など、範囲を限定して

若者に人気の SNS の多くは、アカウント登録年齢が 13 歳以上。ゲームや動画配信なども、コミュニケーションができるタイプで小学生が対象のサービスはほぼありません。高学年であっても、対象年齢に満たないアプリを使い誘い出された事件も起きています。やりとりが可能な SNS やゲームは保護者や中学生以上の兄弟と一緒に使い、メッセージアプリ等は、家族や学校の友達限定で！

中学校 → リアルな友と見えない相手で異なる心構え

自分のアカウントを作れる年齢となり、ネットを介した部活の連絡や友人とのおしゃべりが増える頃。特に表情が見えないやりとりは、誤解や勘違いが生じたり、思いやりのない言葉で誰かを傷つけたりすることも。相手が目の前にいるとき以上に気を配ることが大切です。同じ趣味や共通の話題が多いネットだけの友達ができるのもこの頃。言葉や画像が本当の姿とは限らないことを絶対に忘れないで！

高校生 → 全てが自己責任となる 18 歳に向けて

それまで使えなかったアプリや機能の一部が解禁される年齢。これを大人へのステップと捉え、自分の身や将来に負の遺産を残さない使い方をマスターすることが重要です。

最近、話を合わせ近づき、時間をかけて信頼させてから本性を出すケースも増えています。何でも都合良く受け取らず、自分の感覚や判断を過信せず、一步引いて冷静なやりとりを！相談は身近な人が専門の窓口へ。

【参考資料等】

- 総務省 総合通信基盤局 消費者行政第一課 情報流通行政局 情報流通振興課 情報活用支援室
「実際に起きていることでネットの使い方を考えよう！ インターネットトラブル事例集」

2022年版

- 高橋暁子「子どもが SNS で性的被害にあう理由--「オンライングルーミング」の手口とは？」

2021年12月4日

- 「オンライングルーミングによる犯罪被害防止に大人ができる こと SNS の利用に起因する子どもの犯罪被害は大きな社会課題に」 三菱UFARリサーチ&コンサルティング公共経営・地域政策部 [東京] 副主任研究員 土方 孝将 研究員 渡部 彩乃 2022年11月18日

2022年10月から2023年1月までの活動報告(25件)

月日	テーマ・内容	行事名・主催者等	担当
10月20日	「スマホ社会の子どもたち 子どもの成長に必要なものとは？」	札幌市南区 くまの子保育園 職員研修	木村
11月2日	「スマホ、ネット、ゲームが子どもの成長に与える影響～ルールを決めよう～」	札幌市立北野小学校 家庭教育学級	中塚
5日	登別市富岸小学校 土曜参観日 保護者向け「メディアコントロール講話」		中谷
8日	電子メディアが子どもの心身に与える影響 ～大人に知ってほしいこと～	愛別町 青少年育成研修の集い	諏訪
	苫小牧市若草小学校 4・5年生、6年生 「メディアコントロール授業」		中谷
	「電子メディアと子どもの発達について」 門別小学校保護者	門別町教育委員会 就学前検査時の講話	野澤
9日	富川小学校保護者		
10日	「スマホ社会の子どもたち 子どもの成長に必要なものとは？」(オンライン)	札幌市東区光星はとポッポ保育園、 北区モエレはとポッポ保育園研修	木村
13日	釧路管内PTA連合会研究大会(浜中町) 「ネット・ゲーム依存予防講演会」		中谷
15日	苫小牧市中央東地区育成連絡協議会 「ネット・ゲーム依存予防講演会」		中谷
19日	スマホやゲームが健康、学力、依存など子どもの心とからだに与える影響	江別市家庭問題研究会(江別市教育委員会委託事業)	諏訪
20日	羅臼町内小学校2校で高学年向け、中学1年生向け授業。子育て支援センター保護		中谷

21日	者向け、保健師・教育委員会職員向け講話。	羅臼町教育委員会主催	
22日	スマホやゲームが健康、学力、依存など子どもの心とからだに与える影響	江別市家庭問題研究会（江別市教育委員会委託事業）	諏訪
25日	スマホなどの電子メディアが子ども達に与える影響～メディア活用で親が知っておくべきこと～	千歳市PTA連合会 勇舞中学校区交流研修会	
26日	常呂自治区PTA研修会 「ネット・ゲーム依存予防講演会」		中谷
12月1日	親育ち応援団「絵本ではぐくむ親子の時間」	ちあふる・みなみ	岸
2日	ゲーム・スマホが子どもたちの心身に与える影響について～ネット・メディアとの正しい付き合い方について子どもと共に考えるために～	江別市理論研修会	諏訪
7日	人権教室 「インターネットと人権」	北広島市立大曲中学校	三國
	情報交換会ミニ講座 「絵本で感じる親子の絆」	札幌市家庭教育学級 札幌市教育員会	岸
1月 17日	「デジタルとの幸せな関係を考える」 対象:小3～中3 および保護者	みなばの森 森学舎	中川
24日	千葉県柏市 Zoom 「子どもとメディア」	令和4年度 千葉県柏市認可保育園協議会講演会	諏訪
	胆振東部青少年指導連絡協議会幹事会研修 「メディアコントロール講話」		中谷
25日	札幌市中央図書館職員研修会 「絵本読み聞かせのポイント」	札幌市中央図書館	岸
29日	NPO 法人「木と風のかおり」役員学習会「ネット・ゲーム依存予防講演会」	苦小牧	中谷

【インストラクターのつぶやき】（活動報告に添えられたコメントから紹介します）

【札幌・岸インストラクター】

いつもの通り、テーマは絵本ですが「絵本とネットの子育ての違い」をお話しています。特に家庭教育学級のミニ講座は小学生の保護者の方が多かったのでデータを用いて丁寧に説明しました。現在私のまわりで「子どもがゲームばかり」と嘆く方のほとんどが、結局のところ「諦めてる」とおっしゃることに不安を感じています。今日はYahoo!でもゲーム障害の深刻な状況が伝えられていましたが、どれだけ報道などで依存症の危険性を伝えても「うちはそこまでではない」と自己判断され、長時間のゲーム利用を黙認しているご家庭が増えてきている気がします。

長時間ゲームをした子どもたちが全員依存になる訳ではないのですが、まずはおとなたちがゲーム障害の怖さを知る機会が増えないと解決していかないのかもしれないかもしれませんね。私の講座を受講した事で、たったひとりでも良いので依存にならない環境づくりを整えて下さる方がいらっしゃる事を願いながら地道に活動しています。

【札幌・木村インストラクター】

メディア機器が子どもの成長に与える影響について、体の成長だけでなく心の発達にも影響があるということをお話ししました。その上で、「どう付き合い方していけば良いのか」という使うことを肯定した話の流れにしました。「禁止するのではなく、使い方を考えるという内容に共感した」とか、「保護者にも伝えたい」という感想を頂きました。